

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、21～25℃台を示し、平年並み～やや高い水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——西彼地区では、マサバなどが1日1統当たり1.4トンの水揚げで、前週の2倍（前年並み）。五島奈留地区では、マサバなどが1日1統当たり2トンの水揚げで、前週の50%（前年を下回った）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり1.4トンの水揚げで、前週並み（前年並み）。橘湾地区では、カタクチイワシなどが1日1統当たり7トンの水揚げで前週の1.4倍（前年を下回った）。
- イカ釣——ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり1.9kgの水揚げで、前週の70%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり4.18kgの水揚げで、前週の3.8倍（前年を下回った）。
- 定置網——五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり885kgの水揚げ。北松生月地区では、ブリなどが1日1統当たり4.6トンの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり65kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり40kgの水揚げ。
- 一本釣——北松宇久地区では、イサキが1日当たり253kgの水揚げで、前週の2.8倍（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（10/31～11/5日の6日間）沖合イカ釣り船、船凍船は大和堆付近へ出漁した。

沿岸イカ釣り（氷蔵船）は、山口沖～隠岐海峡～鳥取沖にかけて出漁した。

鳥取県西部（沖合船）：1日延2隻、総計18箱、1航海最高10箱、平均9箱、スルメイカを中心に漁獲、魚体は20～25入主体。今期は主漁場が山口沖に形成され、境港入港船はケンサキイカ漁場へ南下した。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第31-33号 令和元年度 第1回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」を長崎県庁ホームページに掲載しています。

長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」から漁海況週報や漁海況通信をご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>